

担い手のライフサイクルに応じた支援

タイトル 地域農業復興に向けた紫芋の試験栽培

J A ふたば （福島県）

1 動機 （経緯）	J Aふたば管内は、原発事故後に全域が避難指示区域等となりましたが、一部地域では区域の解除が行われ、平成 2 5 年度から同管内の広野町・川内村で水稲作付けが再開されています。 しかし、米価の低迷に加えて、風評被害等に対する農家の不安感が拭い切れない状況にあり、風評被害を受けにくい新たな品目の導入等の対策が必要となっています。
2 概要	平成 2 5 年度から広野町において、J Aふたば・J A全農と連携のうえ、地域農業の復興の足掛かりとするべく、風評被害の影響が想定しづらい染料加工用「紫芋」の試験栽培の取り組みを開始しました。
3 成果 （効果）	品質・収量ともに一定の手ごたえを得られたことから、平成 2 7 年度は川内村にも範囲を広げ、両町村の合計で試験栽培面積を 2 0 a に拡大しています。
4 今後の予定 （課題）	収穫する紫芋や抽出した染料については、J A全農を中心に農林中金も連携して販路確保に向けた取組みを行っており、J Aとしても規模拡大を行う方針です。



紫芋の植込みの様子